

令和7年3月8日

小学生バレーボールの指導者の皆様

鹿児島県小学生バレーボール連盟
審 判 委 員 会

- 1 試合開始前、監督は選手の名前と番号をスコアシートのチーム選手欄に記入するか、記入されたものを確認した後にサインをする。
- 2 チーム・キャプテンは、「サービスを行う。」、「サービスをレシーブする。」又は、「どちらのコートに入るか。」を選択させる。
- 3 **各セットの開始前**、監督はスターティングラインアップを記入したラインアップシート（目玉）をスコアラーがゆとりをもって転記できるように提出しなければならない。ラインアップシートは正しく記入してサイン後、2ndレフェリーに提出する。ラインアップシートの提出が遅れて、ゲームが予定時刻どおりに開始されなかった場合、「チームメンバーが試合を遅らせること」が適用され（監督もチームメンバーである）、遅延行為に対する罰則が課せられる。
- 4 ラインアップシートが2ndレフェリーに一度提出された後は、正規の選手交代をせずにラインアップを変更することは認められない。
- 5 両チームが事前に試合コートでウォームアップをしている場合、ネットを使用した試合開始前の公式ウォームアップは、両チーム合わせて6分間行うことができる。
- 6 どちらかのキャプテンが相手チームとは別に（連続して）ネットでの公式ウォームアップを要求した場合、各3分間行うことができる。
- 7 日本においては、公式ウォームアップは、別々で行うことが多い。公式ウォームアップを両チームが連続して（別々に）行う場合、最初のサービスを得たチームからネットを使用してウォームアップを始める。隣のコートが空いていても、当該コートしか使用できない。また、ネットを使用してウォームアップを行うチームが、サービスのウォームアップを行ったら、ネットを使用してウォームアップを行わないチームは、速やかにコートを空ける。
- 8 テクニカルタイムアウト（TT0）について
選手の健康と安全に配慮をするために導入されているが、近年、ベンチスタッフが指導する場面が多く見られた。TT0中における選手の位置はこれまで曖昧であったため、ベンチ横からウォームアップエリアの間とし、ベンチスタッフは健康観察の声掛け程度ということを再確認する。
TT0は健康観察を目的とするため、30秒間は指定の場所にとどまること。（30秒を待たずにコートに入ることはできない。）
選手はウォームアップすることはできない。また、ホイッスル前にベンチスタッフの前に集合することなく、ホイッスル後、速やかにコート内に入ること。
- 9 監督は、試合を妨害しない限り、自チームアタックラインの延長戦からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内において、立ちながらでも歩きながらでも選手に指示を出すことができる。ただし、ラリー中はベンチに座らなければならない。長いラリーを制した後など選手とハイタッチすることもできない。ただし、令和8年度（～10月まで）は、「監督がラリー中は、ベンチに座る」ことについて

ては、検証の対象となる。

以上より、

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

となる。

10 選手への指示や声掛けについても、「第三者が聞いて『不快だ。』と感じる」場合は、制裁や罰則の対象となりうる。

11 ベンチへの持込物について

- (1) 飲料水については、ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式のボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば問題ない。
- (2) キャンプカートについては、安全面及び屋外の汚れを入れない観点から使用禁止とする。
- (3) 試合中の携帯電話やトランシーバー等の通信機器の使用は、止むを得ず選手の安全や健康管理上の観点から使用する場合を除き、ベンチにおいて使用を禁止する。また、スマートウォッチについては、時計としての使用は認める。通信機器やカメラとしての使用は、禁止する。

12 試合中の応援団グッズの使用及び応援マナーへの対応については、平成19年に監督から選手への指示の声が聞こえなかったり、選手が集中できなかつたりするという理由から、太鼓・ラッパなどの大音量を発生する「鳴り物」は複数コートで試合をしているときには使用しないとの通知が行われ、現在も適用されている。メガホンやバルーンは鳴り物にはあてはまらず、使用については規制してはいない。応援によって選手を励まし、大会を盛り上げることは素晴らしいことであるが、反面応援が選手にとってマイナスとなるケースも見られるので、応援のマナーとして特に以下の点について指導していくこと。

- (1) 審判のホイッスルが聞こえなくなるようなプレー中の応援はしないこと。
- (2) 相手チーム自チームに限らず、選手が萎縮してしまうような罵声は出さないこと。

13 試合終了後、監督・1stレフェリー・2ndレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

【引用文献】

公益財団法人日本バレーボール協会審判規則委員会(2025).バレーボール6人制競技規則, 公益財団法人日本バレーボール協会.

日本小学生バレーボール連盟競技委員会(2025).令和7年度全国審判講習会資料. 日本小学生バレーボール連盟